

平成30(2018)年度 学校評価総括表 伊丹市立伊丹特別支援学校

教育目標		一人ひとりの自立と社会参加をめざし、たくましく生きる力を育てる						
重点目標		①新学習指導要領の趣旨をふまえ、カリキュラムマネジメントを進める ②特別支援学校としての取組の充実と地域への発信の強化 ③安心で安全な学校づくり ④一歩進んだセンター的機能の充実 ⑤教職員が目標を共有し、学部・学年間や各分掌の連携でチーム力を高め、児童生徒への一貫性のある指導を目指す ⑥ゆとりが感じられる職場づくり						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	一人ひとりの教育的ニーズに応じた弾力的な教育課程の編成	○保護者や関係機関との連携、長期的な視点からの支援に向けて、個別の教育支援計画を作成・活用する。	○個別の教育支援計画の様式を見直す。	○様式を情報が整理しやすいもの、支援計画を考えるプロセスが分かりやすいものに変更する。 ○クラスや学部等において、児童生徒一人一人の支援計画について共通理解する。	B	○フェイスシート、支援計画、実態、別紙の4様式に分けて情報を整理できるものに変更し見やすく分かりやすいものに改善できた。 ○毎週のクラス会や設定した支援計画の検討会等で共通理解を図ることができたが、児童生徒数の多い学部や新入生のクラスでは、多くの時間が必要であり、共通理解を深めることが難しい面もあった。	○保護者及び各支援機関と連携した活用の充実には至っていないため、校内研修や保護者説明会等で活用する方法について周知する。 ○個別の教育支援計画の入力日、検討日を適切に設定することで、クラス間での共通理解ができる機会を増やす。	○昨年度受けていた授業が今年度受けられなかった。他の生徒と同様に学べるようにしてほしい。
	わかる授業の構築	○自立活動の6つの領域に関する指導に必要な知識、技能の向上のため、各種相談や研修会を実施・活用する。 ○「わかる・できる集団の授業づくり一題材の課題分析・課題設定に焦点をあてて」をテーマに、全教員が主体的に研究に取り組み、チーム力をいかし、授業づくりに努める。	○課題学習相談、療育相談、研修会を実施する。 ○相談の事前に、相談内容をクラス・学部等で検討したり、相談後に、得た助言等を共有する機会を設けたりする。 ○各学部の研究推進担当が中心になって学部の実態に応じて研究の目的と方法を明確にして研究授業を行い、全ての教員が公開授業を実施する。 ○アクティブラーニングの手法を用いて教員一人ひとりの授業力の向上をテーマにした研究活動を推進する。	○実施した各種相談や研修会を、児童生徒の実態把握や指導・支援に役立てる。 ○各種相談や研修会を基に、クラス・学部等で、自立活動の指導・支援について共通理解する。 ○各学部の研究内容、研究方法の学校全体での共有化。(全体研究会)年4回 ○全教員年1回以上の公開授業または研究授業、事後研究の実施をする。 ○学部ごとのグループ研究においてアクティブラーニングの手法を用いる。	B	○いただいた助言を学習や日常生活における指導につなげられるような相談を、概ね設定できた。 ○記録や動画を通して、学部・クラス会等で、相談内容を共有することができた。一方で、研修会で自立活動の基礎知識について学ぶ機会が少なかった。 ○各学部の実態に応じて研究全体会で授業が行われた。また、全体会で授業作りにおける課題をアクティブラーニングの手法を用いて話し合うことができた。課題分析の方法や指導案への記載の仕方については統一できなかった。	○以前に相談済みの課題を見直す、指導・支援に対する困り感を拾うなど、自立活動委員会として行う相談の受け方の提案を工夫する。自立活動の基礎知識について学べるよう、研修会の内容を検討する。また、ICFなど、他分掌の領域と被るテーマで研修を設定する場合は、複数の分掌で連携したい。 ○課題分析の方法や指導案への記載の仕方については学校として共有できるよう取り組んでいく。公開授業者の人数をしばり、事前に公開月を決めておくことにより、各学部からの参観の調整を行う形で公開授業の持ち方について検討を行う。教員一人ひとりの授業力向上においてどのような方法で取り組んでいくのか検討しつつ、来年度は夏の職員研修のあり方や、自主研修会などを工夫していきたい。	○研修会や課題学習相談を積極的に活用する教員が限られているのではないかと。授業力が向上するようにより一層努力して欲しい。
	卒業後の進路や生活を見据え自立して社会に参加する力の育成	○キャリア教育でこどもにつけさせたい力を明確にする。 ○自立と社会参加を目指し、個に応じた進路指導・支援を行う。	○はたらく力(キャリアプランニング能力)を意識した目標を授業の中で設定する。 ○進路だよりを発行や進路説明会・見学会の実施など、情報の提供をする。	○係活動や実習等の体験をとおして自分の役割を果たすことの大切さに気づき、働くことへの意欲を高める。 ○児童生徒や保護者のニーズを把握し、相談や情報提供などの適切な支援を行う。 ○児童生徒の将来をイメージして目標や課題を設定し、計画的に進路学習を進める。	B	○係活動、委員会などを通して、自分の役割を果たすことができた。(成果) ○働くことへの意欲を持たせることが難しかった。「目標」や「支援方法」の共通理解が、教師間でできていない。(課題) ○進路だより、進路見学会などの情報提供により、新しい事業所の利用につながった。(成果) ○ニーズの把握や情報提供がまだまだ不足している。(課題) ○将来をイメージし、公施設などを利用する学習ができた。(成果)	○自分の役割を果たすことで感謝される経験を大切に学習機会・内容を設定することで意欲をもたせる。 ○キャリア教育の「全体計画」「年間計画」を周知徹底し、個別の指導計画検討会等で活用する。 ○学部ごとに進路説明会、懇談会を実施する。 ○キャリア教育をベースにした進路指導全体計画を作成する。	卒業後、生活介護事業所を利用する場合でも、事業所ごとに状況は違う。生徒のニーズに合った事業所を探すだけでなく、学校での取り組みを事業所でも継続してもらえるような連携が必要である。
豊かな心・健やかな体	豊かな人間関係の形成	○校区交流や共同学習等を通して児童生徒の生活の幅を広げ、地域社会とのつながりを深める。 ○学校行事を通して児童生徒の経験を拡大し、児童生徒の人間関係のよくなるようつくる。 ○互いを思いやる心を育て、いじめのない学校づくりに努める。	○小・中学部は校区交流、学校間交流を実施する。 ○高等部は市内の公立高等学校、近隣の特別支援学校との交流及び共同学習を実施する。 ○児童生徒の関わり合いを広げられるよう、春のつどいや宿泊学習における集団活動の内容を吟味する。 ○自分の気持ちや考えを伝えたり、他者の気持ちや考えをきいたりして、互いを認めあう関係をつくる。	○日常の交流(共同学習含む)を積み重ね、児童生徒の様々な体験の機会を増やす。 ○春のつどい(4月)と林間学校(5月)の行事ごとに、関わり合いを広げる場を設定する。 ○学校生活全体をとおして、気持ちや考えを発信する機会をつくる。	B	○普段の学校生活では体験できないことを交流をする中で体験することができた。交流を継続し、普段できないことを経験する機会を設定する。 ○関わり合いを広げることができた多くの教員が評価した。春のつどいでは縦割り集団でのゲームを企画し、学部を越えた関わりを持つ取り組みを新たに行った。 ○林間学校では自然体験などの経験の機会を持った。 ○日常的なやりとりを大切に児童生徒からの発信を待ったり、道徳の授業などで考えを伝え合ったりできた。細かく児童生徒の気持ちの把握まで出来た。	○今年度の反省を基に、交流の方向性を提案し、各学部において、交流及び共同学習を継続する。 ○保護者説明会で交流についての説明を行う。校内で、職員研修を行う。 ○人間関係の形成を目標に、今後も児童生徒同士の関わり合いを広げる場面設定を継続する。 ○児童生徒の経験の機会を拡大と、その内容の充実を図る。 ○児童生徒の気持ちを受け止める教員のアンテナを広げると共に、児童生徒の発信力を高める指導を工夫する。	○児童生徒がなかなか経験できないことができる貴重な交流の場を有効に生かしてほしい。
	安心・安全な学校生活の推進	○全児童生徒の健康の保持増進を図るとともに、医療的ケアを必要とする児童生徒に必要なケアを実施できるように体制を整備する。 ○人命を守り、安全を確保し、災害の防止を図る。	○日常の健康観察や担任から得た情報を養護教諭・看護師間で情報共有をする。 ○医療的ケア委員会等にて教育活動内容に応じた看護師体制の整備をする。 ○児童・生徒に防災教育を実施するとともに、集団の訓練を通して常に生命の安全に力を注ぐ。 ○非常事態発生時の児童・生徒の安全を確保する。	○養護教諭間で健康観察結果を毎授業日に記録・確認し、看護師間で健康観察等の結果を医療的ケア記録に記録・確認し、養護教諭・看護師・担任間で情報交換を行う。 ○個別の体験学習や実習時等の医療的ケアについての手続き方法・ルールを決める。 ○児童・生徒の安全を確保するための避難・防犯訓練を実施する。(火災避難訓練 5月、洪水避難訓練 6月、防犯訓練 8月、震災避難訓練 1月) ○避難経路の確認や消火・防災機器の管理など、日常的な防災・防犯についての意識を高める。	B	○養護教諭間・看護師間・教員と情報共有を行い、児童生徒の健康の保持増進について対応や対策を考えることが出来た。 ○医療的ケア委員会にて個別の体験学習や実習時の看護師引率の方針について定めた。 ○訓練のための訓練にならないように、訓練の開始時間を大まかな時間しか伝えなかったり、本物の消火器に触れる体験をしなかった。 ○防災についての意識をしっかりと持って取り組めた。今後も、様々な想定を考え避難や防犯の訓練を行っていく。	○体調不良時などでも早期に適切な対応できるような情報共有しておく。 ○個別の交流や実習時、本校の看護師引率しないことについて、保護者へ説明し理解を得る。 ○地震でガラスが割れて廊下を使用できない、火災に見舞われ取り残されてしまうなど様々な想定の下で避難・防犯訓練を行う。 ○「クロスロード」や「ジグ」等を職員研修で行い、防災についての意識を高める。	○自然災害が多かった1年であった。日ごろからの取組は大切である。 ○開かれた学校ということも大切だが、不審者から児童生徒を守るということも絶対必要なことである。
開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	○積極的に学校からの情報を発信し、家庭に開かれた学校を目指す。	○連絡帳や学部通信を通して学校の様子を家庭に伝える。	○毎日連絡帳でそれぞれの児童生徒の学校の様子を伝える。 ○毎月1回学部通信を発行し、学部全体の様子を伝える。	B	○連絡帳を通して日々の学校生活や学習内容等について、毎月1回の学部通信で学部全体の行事や活動等について、それぞれの家庭に伝達することができた。連絡帳や学部通信で伝える情報以外に、学校から保護者に対して効果的に情報発信する方法が重要である。	○学校だよりやホームページの充実の他、参観日やPTA運営委員会等で保護者が来校する日に校長室を開放する等の方法で、積極的な情報発信や、保護者と意見交換できる場を設ける。	○日頃から連絡帳による保護者とのやりとりから情報を得るようにして欲しい。 ○保護者からの意見を聞く窓口を明確にして欲しい。
	一歩進んだセンター的機能の充実	○校内委員会の運営及び、人材の育成にとつめる。 ○特別支援教育における地域のセンター的機能の充実を図り、教育相談、巡回相談、学校園等コンサルテーションなど、各事業を円滑に実施する。	○要請のあった授業への支援や自主研修会を行い、必要に応じて校内委員会を開催し、問題の共有、解決をはかる。 ○市内すべての肢体不自由特別支援学級に向けて必要な支援を行う。 ○要請のあった学校園の支援体制に応じて段階的に学校園コンサルテーションを実施する。 ○人材育成の視点から研修講座を開催する。	○要請のあった授業に適切な指導・支援をしたり資料を提供したりするなど、問題と改善策を職員に伝える。 ○実施した数値を周知する。 ○実施した数値を周知する。 ○実践講座の内容と参加人数、アンケート結果をセンター便りで周知する。	B	○校内委員会等で問題について検討しよりよい方向性を見つけたが、職員への周知については不十分なところがあった。要請のあった時間や授業については支援することができたが、継続的な支援にはならなかった。 ○市内の肢体不自由学級は概ね訪問できた。コンサルテーション6幼稚園、9小学校、5中学校へのべ289件支援に入る事ができた。 ○コーディネータースキルアップ講座と特別支援学級担当者の講座、通常学級担任3講座実施、市内教職員向け実践講座16講座実施	○委員会の中で役割分担を明確にし、職員への周知の方法について検討する。 ○継続的な支援のありかたについては、どのようにするのか探っていく必要がある。 ○実践講座について、ニーズの把握を的確に行う。	○支援要請は多く、センター的役割に対するニーズは高いが、本校校内支援とのバランスが難しい。 ○外部の意見を聞く場を持って、開かれた学校づくりをする必要がある。 ○フェスティバルが無くなり、地域とのつながりが見えにくくなった。

学校関係者委員会総括
 急激な児童生徒数増や障がいの多様化に伴うニーズの変化などに伴い、学校行事の開催時期や授業体制をはじめとする様々な変化に対して、保護者への説明が行き届かず、わかりにくく保護者が不安になる状況が生じた。新たに、学校だよりの発行や保護者説明会、意見を聞く会の開催など取り組んだが、十分なものにはならず課題を残した。校長のリーダーシップのもと、学校の取組の「見える化」を進め、信頼関係を構築する必要がある。

次年度に向けた重点的な改善点
 新様式の個別の教育支援計画、個別の指導計画を日々の教育活動に反映し、保護者や関係機関と連携するツールとして活用する。キャリア教育の視点から、様々な児童生徒のニーズに応じたカリキュラムマネジメントを進める。学校だよりやホームページなど発信力を強化し、学校の取組をわかりやすくする。また、保護者、地域や関係者の意見を取り入れ、信頼される学校づくりを図る。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った